内藤新宿（道と宿）

内藤新宿

ここにある模型は、江戸時代の宿場町「内藤新宿」の復元模型です。そしてこれが、現在の「新宿」の地名のはじまりなのです。

1603 年、徳川家康が江戸に幕府を開き、江戸が政治の中心になりました。すると、日本中から江戸に人や物が集まります。人や物の移動を便利にするために、全国の主要な場所につながる道（街道）が整備されました。そして 2 ～ 3 里（約 8 ～ 12km）ごとに、旅人の宿泊や、荷物を運ぶ人や馬を中継ぎ（＝リレー）する「宿場」が置かれました。

新宿区内には、五街道のひとつ「甲州道中」が通っています。（現在の新宿通り）。江戸時代の初めに甲州道中が整備された時、江戸から最初の宿場は高井戸（現在の杉並区高井戸）でした。街道のスタート地点は日本橋（現在の中央区、日本橋川にかかる橋）なので、日本橋から高井戸までは約15km。江戸からの旅人は、「最初の宿場までが遠いよ～」と困っていました。そこで、町人の高松喜兵衛たちが幕府にお願いし、現在の新宿御苑の近くに新たな宿場を作りました。このため、**新**しい**宿**場＝新宿となりました。宿場ができたのは 1699 年。五街道の中では最後にできた宿場です。

また、宿場を作るときに、信州高遠藩（現在の長野県伊那市）内藤家の大名屋敷だった土地の一部をもらって作ったため、「内藤新宿」と呼ばれました。

模型をよく見てみましょう。多くの人が歩いています。たくさんの荷物を背負った馬もいます。ここは宿場町なので、旅人が泊まる宿屋や、料亭、茶屋などが並んでいました。

宿　　場：昔、街道のとちゅうにあった、旅人が宿にとまったり、馬やかごを乗りついだりしたところ。
五 街 道：東海道、中山道、甲州道中、奥州道中、日光道中の 5 つの主要な街道のこと。
甲州道中：江戸（東京）から西へ、現在の山梨県甲府市を通って長野県の下諏訪町まで約 208.5km を結ぶ街道。

こどものページ

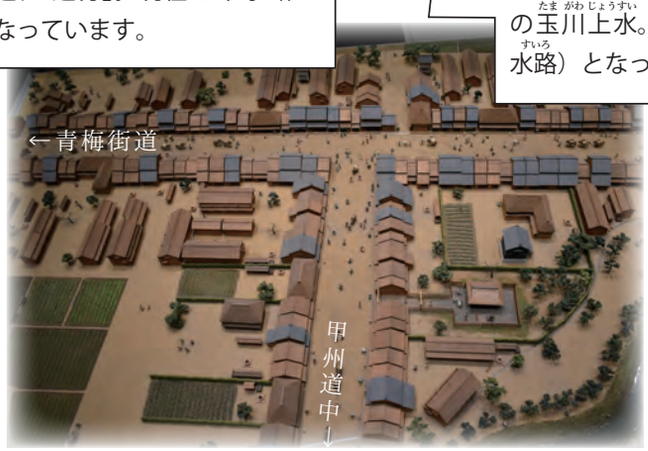
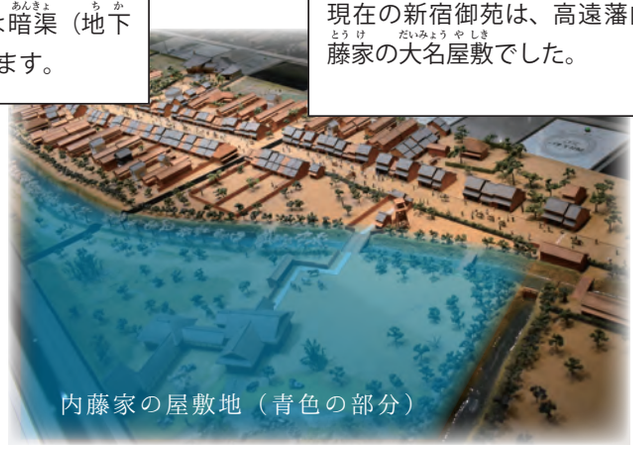
江戸のくらしと新宿　　新宿歴史博物館 常設展示解説シート❹

模型でさがしてみよう！

江戸への出入り口で、両側に石垣があります。手前が江戸、奥に進むと内藤新宿となります。

玉川上水はここから地下に入り、石や木でできた水道管（石樋・木樋）で江戸市中に水を運んでいました。

青梅街道と甲州街道の分かれ道、「追分」。現在は十字路になっています。

新宿御苑の前の道が、かつての玉川上水。今は暗渠（地下水路）となっています。

現在の新宿御苑は、高遠藩内藤家の大名屋敷でした。